

社会福祉法人梓友会法人本部

令和5年度 事業報告

令和5年度 事業計画	進捗状況
<p>1. 継続可能な法人経営を目指して</p> <p>(1) 各拠点施設の適正な数値目標管理</p> <p>(2) 法人マネジメントの徹底</p> <p>(3) 事業見直しのための検討委員会の設置</p> <p>(4) 感染症等の有事に備えた事業継続計画（BCP）の策定に向けた推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月次経営調整会議を通じて、数値目標の意識付けや、数値目標達成に向けた課題抽出並びにその対応策強化に取り組んだ。その結果、特養部門は数値目標を達成した。一方、ショートステイ部門は特養の退所者が前年度を大きく上回ったことにより、ロングショート利用者の特養入所が大幅に増加した影響を受け、目標値に未達となった。 ・毎月、施設長会議・経営調整会議、年2回（5月、10月）にマネジメントレビューを開催し、実績管理や評価不適合管理を行い、品質管理の維持強化を図った。また、JICQA サーベイ（11/6～11/8）におけるISO規格の更新継続を行った。 ・老朽化している施設の事業見直しは、法人の今後を左右する大きな課題となっている。法人本部職員の退職があったことから、令和6年度に検討委員会の設置を行い、今後の事業見直しを検討していく。 ・令和6年3月末に義務付けられている事業継続計画（BCP）を各施設で策定した。今後はBCP訓練を通じ、有事に備えたより実践的な事業継続計画（BCP）に更新するよう推進する。
<p>2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止</p> <p>(1) コンプライアンス経営の推進</p> <p>(2) 不適切事案・事例検討含む研修の実施、設備環境の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会計監査人による計4回の会計監査、会計顧問事務所による計12回の月次監査、監事による計2回の監事監査を通じて、法人の適性運営、会計法規の順守徹底を行った。また、令和6年度介護報酬改定に対応するため、生活相談員や事務職員等を対象に法人内研修を実施した。 ・各施設で高齢者虐待防止のための指針を作成し、虐待防止のために委員会を設置し、不適切事案を防止するための検討を行った。また、導入後好評だった動画での研修を利用していない3施設で新たに導入し、動画による研修を実施した。

<p>3. 人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営</p> <p>(1) 人材確保に向けたチャンネルの整理</p> <p>(2) 外国人労働者の安定雇用</p> <p>(3) 人材確保のためのツール見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 労働人口の縮小から人材確保が困難になっていることから、採用業務を新たな業者に委託し、人材確保への新たなチャンネルを設置した。また、経理職員の業務負荷を減少し、経理業務の効率化を行うため、記帳代行サービスを活用した。 • 令和5年4月にミャンマーからの技能実習生2期生3名を受け入れ、令和5年12月に特定技能実習生1名を受け入れた。令和6年9月には特定技能実習生4名の受け入れ予定となっている。今後は特定技能実習生の受入体制を整備するため、機能実習生1期生をリーダーに育成し、実習生の安定した雇用を継続する。 • HPの採用ページの見直しを行い、新たに業務委託した採用委託業者を利用して、自法人HPブログの更新頻度を向上することにより、HPを通じた採用応募が増加した。今後もHPの随時更新を図り、県外からのUターン、Iターン、移住者の採用強化を継続する。
--	--

社会福祉法人梓友会 法人本部 令和5年度 事業報告

1. 理事会及び評議員会開催状況並びに承認事項

令和5年5月24日 第1回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事2名

承認事項：

- ・令和4年度事業報告
- ・令和4年度決算報告及び監事監査報告
- ・公益事業の追加に伴う定款変更
(成年後見制度に関する事業の追加)
- ・令和5年度定時評議員会決議事項

報告事項：

- ・理事長職務執行状況の報告
- ・令和4年度理事長専決事項報告
- ・エクレシア南伊豆3Fバルコニーフェンスの不具合について

令和5年6月13日 令和5年度 定時評議員会

開催場所：下田東急ホテル（リモート併用）

出席：評議員7名、理事2名、監事2名、会計監査人1名

承認事項：

- ・令和4年度決算報告及び監事監査報告
- ・理事・監事の選任
- ・公益事業の追加に伴う定款変更
(成年後見制度に関する事業の追加)

報告事項：

- ・令和4年度事業報告
- ・エクレシア南伊豆3Fバルコニーフェンスの不具合について

令和5年6月13日 第2回理事会

開催場所：下田東急ホテル

出席：理事5名、監事2名

承認事項：

- ・理事長の選任
- ・評議員選任・解任委員の選任

令和5年12月6日 第3回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事5名、監事2名

承認事項：

- ・令和5年度第一次補正予算
- ・経理規程の一部改訂
- ・運営規程の一部改訂

報告事項：

- ・期中監事監査実施結果の報告
- ・理事長職務執行状況の報告

令和6年2月2日 第4回理事会

開催場所：書面による決議の省略

出席：—

承認事項：

- ・施設長の選任

令和6年3月19日 第5回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事5名、監事2名

承認事項：

- ・令和5年度最終補正予算
- ・令和6年度事業計画
- ・令和6年度当初予算

- 施設長の選任
 - 給与規程等の一部改訂
 - 経理規程の一部改訂
- 報告事項：• 理事長職務執行状況の報告

2. ISOの推進

- 5月～10月 内部監査計画に基づき内部監査を実施
 11/6～11/8 第14回サーベイランス審査（審査員：日本検査社・I-I津島・長谷部審査員）

3. 施設長会議、マネジメントレビュー

- 毎月中旬開催（年間12回）
 議題 理事長指示事項、数値目標達成状況、運営状況（職員配置、利用者状況等）、
 評価・不適合報告、部門目標達成状況報告他
 マネジメントレビュー（外部・内部要因の変化、取り組み状況、評価不適合）
- 5月19日 令和4年度総括
 - 10月20日 令和5年度前期総括
 - 令和6年5月17日 令和5年度総括

4. 経営調整会議

- 毎月中旬に開催（年間12回）
 議題 月次予算実績対比表の報告と分析

5. 会計監査人監査

- 米田光一朗会計監査人による会計監査を計4回実施
- 4月21日 令和4年10月～12月会計データ分（リモートにて実施）
 - 5月10、11日 令和5年1月～3月会計データ分（決算に係る会計監査を含む）
 - 9月28日 令和5年4月～6月会計データ分
 - 12月6日 令和5年7月～9月会計データ分

6. 監事監査

- 佐野監事、外岡監事による監査を計2回実施
- 5月15日 決算監査（事業報告、計算関係書類、財産目録に関する監査）
 - 11月15日 期中監査（理事の業務執行状況、施設運営状況、財産状況に関する監査）

7. 月次会計監査

- 会計顧問事務所（イワサキ経営 戸部様）による会計監査を計12回実施
- 4月26日 令和5年3月会計データ分
 - 5月2日 令和4年度決算に係る監査
 - 5月29日 令和5年4月会計データ分
 - 6月26日 令和5年5月会計データ分
 - 7月27日 令和5年6月会計データ分
 - 9月11日 令和5年7月会計データ分
 - 10月5日 令和5年8月会計データ分
 - 11月13日 令和5年9月会計データ分
 - 12月11日 令和5年10月会計データ分
 - 1月11日 令和5年11月会計データ分
 - 2月6日 令和5年12月会計データ分
 - 3月5日 令和6年1月会計データ分

8. 団体交渉・労使協議会の実施

5/23、6/27 第1回団体交渉・労使協議会 夏季一時金(1.8ヵ月)
11/29 第2回団体交渉・労使協議会 冬季一時金(1.8ヵ月)
2/20、3/19 第3回団体交渉・労使協議会 定期昇給(2号俸)、処遇改善交付金

9. 福祉関係団体の各種セミナー参加

全国社会福祉施設経営者協議会、全国社会福祉協議会、社会福祉懇談会、
全国老人福祉施設協議会、東京経営者協会、日本介護経営学会、日本老年社会学会、
青年福祉施設経営研究会、つしま医療福祉研究財団、医療介護福祉政策研究フォーラム、
介護人材政策研究会

10. 静岡県社会福祉法人経営者協議会 東部地区経営協 事務局の運営

7/11 総会

会 場：沼津 プラサヴェルデ
参加者：26名

合同研修会

会 場：沼津 プラサヴェルデ
参加者：40名

演 題：『すべての人々のウェルビーイングを向上させる持続可能な
健康長寿のまちづくり ～陽伊豆の国構想と3A構想～』

講 師：順天堂大学国際教養学部 国際教養学科 教授
湯浅 資之 氏

3/6 事務研修会

会 場：沼津 プラサヴェルデ
参加者：60名

演 題：『令和6年度介護報酬改定を踏まえ
今後の社会福祉法人にもとめられるもの』

講 師：一般社団法人 介護人材政策研究会 代表理事
天野 尊明 氏

3/8 静岡県福祉職合同入職式

会 場：沼津 プラサヴェルデ

参加者：東部地区の福祉職新規採用者（新卒者）30名
当法人から新卒者1名と特定機能実習生2名参加

令和5年度 人材開発室 教育研修等実績報告

	内 容	詳 細
新 任 職 員 研 修	① 新任職員オリエンテーション	4月3日～6日 1名
	② スキルチェック	各施設にて実施
資 格 取 得 支 援	① 介護福祉士受験対策講座による資格取得の支援	模 試：11月9日実施
	② 介護実務者研修 スクーリング（協力事業）	日 程：令和5年9月16日（土）～ 11月12日（日） 協力校：専門学校ユマニテク医療福祉大学校
地 域 福 祉 活 動 他	介護の魅力発見セミナー（学校訪問） 静岡県社会福祉人材センターより依頼	7月7日 下田高校（19名）

企業主導型保育事業 みくら保育園

令和5年度 事業報告

令和5年度 事業計画	進捗状況
<p>1.持続可能な法人経営を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員のお子さんを対象にした職員枠と地域の保育ニーズに対応する地域枠をバランスよく組み合わせ、保育事業単体として適切な収支バランスを取り、財務力強化に努める。 具体的には、地域との連携を深化させ、財務強化を図るため、引き続き、連携推進加算の取得に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 下田市教育委員会から地域枠の待機児童の受け入れ要請もあり、職員枠の育休復帰と調整し、連携しながら定員に達した。職員人数と園児数に合わせた保育を提供し、連携推進員の配置により連携推進加算に取り組むことができた。
<p>2.コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種のマニュアルに基づき、適切な対応を行うことにより関係法令の遵守や事故防止に努める。前年度に引き続き、「感染症対応マニュアル」については、新型コロナウイルスをはじめとした様々な感染症リスクに対応出来るよう、必要な見直しを行う。あわせて、BCPの作成を実施する。 不適切な保育の未然防止や園内事故の予防対策として、チェックリストの活用やガイドライン、ヒヤリハット事例を収集し全職員で確認・検討を実施する。そのことにより、職員の意識の向上強化し、安心・安全な保育サービスを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種のマニュアルについて見直しや変更等の際は、職員間で共有し改善していった。基本的な感染症対策は日々取り組み、感染拡大防止の設置に努めた。また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付け変更したことに対応した。 全職員でヒヤリハットを確認し職員会議等にて検討し改善していった。保育所等における不適切事案を踏まえた対策としてガイドラインを策定し、未然防止できる環境・体制づくりを進めていった。
<p>3.人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営</p> <ul style="list-style-type: none"> 育休中の職員の職場復帰ニーズに対応し、職員が安心して、従前の仕事に復帰できる環境づくりを行う。 みくら保育園の特徴である「“こころ”と“からだ”と“あたま”を育てる」を総合的に提供されるように創意工夫をして取り組む。「英語教育」「ミッケルアート」の更なる活用を進め、知育への取り組みを推進する。 児童育成協会主催の「施設長等研修」及び「保育安全研修」を年1回受講し、行政主催のアレルギー対策及び感染症予防対策等の研修会を受講し、保育士の資質の向上を意識し、業務に必要な知識や技術を習得し専門性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> みくら保育園の利用者16名のうち、育児休業から職場復帰したことによる利用者数は、3名となった。 多世代交流は、新型コロナウイルス感染対策のため実施できない日があった。園外保育を積極的に取り組み地域交流を実施した。「ミッケルアート」は毎月、行事や保育内容に合わせたアートをリクエストし活用した。講師を招いて知育ヨガを実施した。英語の歌を聞いたり見たり英語に触れられる環境を整えた。今後も講師を招いて知育教育、英語教育を提供する。 全職員が研修に参加できるように配慮し研修内容については、職員会議等でフィードバックを実施した。

特別養護老人ホーム 梓の里

令和5年度 事業報告

令和5年度事業計画	進捗状況
<p>1. 持続可能な法人経営を目指して</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 静岡県社会福祉協議会が主催する「持続可能な権利擁護支援モデル事業」に参画し、定款の変更・登記を行い、静岡県社会福祉協議会助成金制度を活用し法人後見事業を実施するため、ハード面の体制づくりを実施した。 • 施設機能を地域に還元することを目的として7月に地域講座（後見制度・免疫力を高める食事・認知症予防）を開催し、31名の参加を得、31名中23名の方から5段階評価の良かった5を頂いた。 • 社会福祉法人としてサービスの質を確保するため、平成19年に受審した静岡県福祉サービス第三者評価事業を再受診するため、準備作業を開始する予定でしたができなかつたため、次年度以降に継続することとした。
<p>2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 通所部門では、介護経験の浅い職員を対象に、研修会に参加させ、3大介護の基本ポイントの知識の充実をはかった。 • 不適切ケアについて認識を共有し、個別ケアを推進してくため、3ユニットで法令遵守と不適切ケアの研修を行い、個人評価を行った。 • 事故となる原因を明確にし、事故の遡減に繋げるとともに、ご利用者の安心、安全を確保するため、6月に転倒ハイリスク者の選定と現状把握を行い9月から対策の実施をした。
<p>3. 人材確保対策と職場環境の充実を図る経営</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ケアカルテの有効活用による省力化のため、紙ベースとの重複などを検証し、6月から紙ベースの記録を廃止した。 • 職員の健康管理の一環として、職員健康診断結果に基づく糖尿病の要治療者を対象に3月に栄養指導用資料を作成し、栄養指導を行った。 • 安全運転管理業務の効率化のため、マイカー通勤に関し、免許等管理項目の見直しを行い、9月から新たな申請書による管理を開始した。

特別養護老人ホームみなとの園
令和5年度 事業報告

令和5年度 事業計画	進捗状況
1. 持続可能な法人経営を目指して (1)稼働率の安定化	<ul style="list-style-type: none"> 入居、短期ご利用者様ともに好評であった脳トレ等を提供した所、利用者、家族、担当 CM より高評価を頂きコロナ発症月以外は 80%台をキープしていた。
(2)持続可能な運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 福祉施設の公共性の役割を果たすために、感染拡大を最小限に抑え、可能な限り利用継続とした。(感染対策の為に2階と3階の職員が接触しないよう対策を講じた)
(3)老朽化設備更新と経費削減	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の安全、安心が図られるように優先順位をつけ老朽化している設備等を修繕し安全、安心を得られた。又、会議等を通じ経費削減に努めるよう具体的な数字を知らせ、職員に周知を図った。
(4)社会・地域貢献活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を立て毎月第三木曜日に認知症カフェ(南伊豆町実施事業)を開催し地域の方々が集まり認知症相談や作品作り等を行い成果が得られた。又、短期事業では緊急受け入れが2件、配食事業での訪問時2件の救急要請を行い自治体より高評価を得られた。
2.コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止 (1)不適切事案防止	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に資料等の回覧や今年度導入した動画研修(お茶の水学院)を使用しての勉強会を行い再度、不適切事案の再発防止を行った。又、定期的に館内を周り助言や対策を図る様に指導を行った。
(2)法令順守	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に全職員に対して、法令関係、法人理念、ISOの要求内容等の研修を行い知識向上に努めた。又、動画研修ではわかりやすく良かったとの声が多くとても好評であった。
3. 人材確保の強化と職場環境の充実を図る経営 (1)人材定着化	<ul style="list-style-type: none"> 職員の入職時にOJT指導を通じて、知識と技術を習得するまで根気よく対応することが出来た。又、既存の職員も同様な対応で、楽しくサービスを提供している姿が見られる。
(2)ICT 機器の更なる活用による労働環境改善	<ul style="list-style-type: none"> 各階のICT機器の操作状況等の再確認を行い、勉強会等を通じ操作方法を習得し、業務省力化や腰痛防止が図れた。

特別養護老人ホーム 太陽の里

令和5年度 事業報告

令和5年度事業計画	進捗状況
<p>1. 持続可能な法人経営を目指して</p> <p>(1) 社会福祉法人の公益性に鑑み地域の福祉を守り維持する</p> <p>(2) 地域にとって適正規模を維持する経営</p>	<p>①喀痰吸引・経管栄養（胃瘻）が必要なご利用者の受け入れ体制を維持する演習を実施した。</p> <p style="padding-left: 20px;">（喀痰吸引演習 7月、経管栄養演習 9月）</p> <p>②看取り介護体制の充実のため、アンケート用紙一部改訂し、看取り介護勉強会を11月に実施した。</p> <p>③西伊豆町の介護予防に取り組むための基盤整備のお手伝いをする地域リハビリテーション連絡会に参加した。</p> <p>④災害対策・感染症対策の部門勉強会を通じ職員の意識低下を予防するため、感染対策勉強会を6月に実施し、災害関連の勉強会を8月に開催した。</p>
<p>2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止</p> <p>(1) 社会福祉関連法を職員一人一人が遵守する</p> <p>(2) 事故防止の取り組み</p>	<p>①介護現場での不適切事案について職員に対してアンケート調査を実施し、委員会でアンケートを取りまとめ、ケアスタッフ会議でケアの統一方法を検討し、施設内研修でスタッフに周知した。</p> <p>②交通事故ゼロを目指し職員へ安全運転の啓蒙活動を定期的に行うため、施設内掲示板に交通安全の啓発掲示を行い、公用車の運行状況の管理を行った。また、ドライブレコーダー記録確認と動作環境の管理を保有車両に順次実施した。</p>
<p>3. 人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営</p> <p>(1) 職場環境の改善</p> <p>(2) 地域の支え手の確保</p>	<p>①働きやすい環境を自ら考え、働きやすい職場を自ら作る。職員が年齢を重ねても働ける職場を目指し、職場環境を理由にした離職ゼロを目指す取り組みとして、5月に5S活動勉強会を開催し、職員間のディスカッションの時間を作った。</p> <p>②西伊豆中学校生徒を対象に介護の魅力を発信するため、令和5年度ボランティア活動説明会に参加し、8月の夏休み中に中学生ボランティアを受け入れた。</p>

介護老人福祉施設みくらの里

令和5年度 事業報告

運 営 目 標	実 績
<p>1. 持続可能な法人運営を目指して</p> <p>(1) 社会福祉法人としての公益性の重視</p> <p>(2) 地域の福祉を守るための体制づくり</p> <p>(3) 経営規模の適正化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して地域のニーズに応えるよう努め、ショートステイにて年間で77件、デイサービスにて年間で37件の新規契約を結ぶことができた。デイサービスの実利用人数は月間で10名増加している。 ・会議や研修を通じて、リーダー層、ケアマネに対して教育指導を行い、地域のために職務に取り組む使命感を高めることに努めた。 ・年度のはじめにおいては、勤務を組むのが極めて困難なほどの状況であったが、採用活動、実習生受入により年度中ごろより不足感の少ない勤務体制を築くことができた。
<p>2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止</p> <p>(1) 研修体制の整備</p> <p>(2) 公正及び透明性の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度よりオンライン動画配信による研修システムを導入 ・研修計画をより実行しやすくなり、資料準備等、担当者にかかる負担を軽減することにもつながった。 ・職員の参加状況にばらつきがあるため、全員に満遍なく受講してもらえよう促していく必要がある。 ・本年度も事故を避けることはできなかったが、その際の報告をできる限り早く 行うよう努めた。また、転倒が連続して発生した際には、全体への掲示により周知を図り、研修を合わせて行うことで情報共有、公正及び透明性の確保を図った。
<p>3. 人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営</p> <p>(1) 外国人人材、新人職員の定着化</p> <p>(2) 業務全体の効率化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミャンマーからの外国人人材は今年度4名増え、総勢で10名となった。専任の担当職員によるサポートを中心として、現場リーダーや送迎担当職員も含め、様々な人がかかわることにより円滑な勤務につなげている。本年度は新卒職員も1名入職し、4月のオリエンテーション、OJTを通じ介護職員として十分な戦力となっている。 ・ドクターメイト利用時にスカイフォンを活用することによって、夜間オンコールの際に情報伝達がスムーズになり職員負担が減少することにつながった。 ・インカムの導入を推進し、年度終わりには夜勤帯で使うことができるようになり、情報共有の迅速化、業務の効率化につながった。

小規模多機能型居宅介護 みくらの里

令和5年度 事業報告

令和5年度 事業計画	進捗状況
<p>1. 持続可能な法人経営を目指して</p> <p>(1) 持続可能な運営体制整備</p> <p>(2) ICT 導入によるケアの質の向上</p> <p>(3) 地域とのかかわりから新たなニーズを見つける</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナによるクラスターが発生し、感染抑制のための環境整備やゾーニングを行い、職員が少ない中での運営継続の対応がBCPの内容確認となりシュミレーションの機会となった。 • 自然災害についても7/18にシュミレーション訓練を行い、実際の動きをイメージすることができた。 • 4月より導入した生活機能改善機器 FREEDAM を活用し、体操・運動・脳トレ等の活動を日課に取り入れつつ、利用者だけでも楽しみながら行える体制が図れ、利用者と向き合う時間や増加している訪問の対応に充てることができ、継続的な訪問体制強化加算につながっている。 • 運営推進会議で、老若男女多世代が自然と集まり交流を図れる場所があれば孤独感を感じる方を減らせるのではという意見をいただいた。介護保険事業に限らず、今後も地域の課題を拾い上げ住みやすい地域作りにつなげられるよう努める。 • 小規模多機能の特性や居宅サービスとの違いをわかりやすくまとめたパンフレットに刷新したことで、説明もしやすく理解されやすくなり外部居宅や地域からの相談・紹介を多くいただくようになった。
<p>2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止</p> <p>(1) ヒヤリハット、事故防止の強化</p> <p>(2) 不適切対応防止強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 人的ミスによる防げる事故に対し、7/20・10/19・1/16・3/19の4回/年「ヒヤリハット・事故防止検討委員会」を開催し、再発防止・対応策の効果・新たな事故の発生等についてもモニタリングすることで、前年度より-25件(64%)防げる事故を削減することができた。 • 不適切ケア・身体拘束廃止勉強会を10/19・1/16・3/19に行い、チェック表を用いての自己確認を行った。頭では理解しているが、業務で余裕がなくなること言葉尻が強くなってしまったりする傾向はみられ、継続して歯止めが必要と感じた。
<p>2. 人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営</p> <p>(1) 働きやすい職場環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 業務分担や夜勤時間の変更等により、日勤帯の職員を厚くし遅番を廃止したことで、シフトの偏りが解消された。また、体調不良等の急な休みも取りやすくなり、有休取得によるリフレッシュやNO残業デーによる残業の削減にもつながっている。 • R5年度退職者2名、入職2名あり。2名とも認知症基礎研修を修了済み。

介護老人福祉施設エクレシア南伊豆 令和5年度 事業報告

令和5年度 事業報告	進 捗 状 況
<p>1. 持続可能な法人経営を目指して</p> <p>(1) 感染症対策と業務継続に向けた取組みの強化</p> <p>(2) 杉並区からの入居者に対する積極的なアプローチ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は感染症および自然災害が発生した際、介護サービスを継続するための事業継続計画（BCP）を策定し、各委員会において周知並びに訓練を実施した。 ・区役所ロビーでの入居相談会を5回実施した。また、リロケーションダメージに関する聞き取り調査を実施しており、次年度以降の継続取組みとしている。
<p>2. コンプライアンス経営の徹底と不適切事案及び事故防止</p> <p>(1) 関係法令遵守への対応</p> <p>(2) 地域課題解決に向けた行政との連携強化</p> <p>(3) 地域（賀茂地域や杉並区）との連携の深化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度よりオンライン動画研修を導入し、該当職員全てに倫理及び法令遵守に関する研修を実施した。また、その他の関係法令に関する研修についても計画的に実施した。 ・杉並区内のケアマネ協議会にオンライン参加し、当施設の活動報告とPRを実施した。あわせて、区内ケアマネを対象とした施設見学会も開催し、幅広い周知を実施した。また、それぞれの社協とも連携し各種取組みを実施した。 ・各区町のイベントであるすぎなみフェスタおよびフェスタ南伊豆でブース出展を行い、PR活動を行った。また、地元高校の施設見学、実習受け入れおよび慰問受け入れを再開し、地域との連携強化を図った。
<p>3. 人材確保対策の強化と職場環境の充実を図る経営</p> <p>(1) 業務・職場環境の改善および魅力ある職場づくり</p> <p>(2) 積極的な情報発信</p> <p>(3) オンライン動画研修の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の介護職員の入退職は入職7名、退職5名となり若干ではあるがプラスとなった。また、介護職員と介護補助職員の業務見直しを行い、一部業務の業務改善を実施した。 ・施設からご家族様へ普段の生活の様子をお伝えする『エクレター』の定期送付、施設独自のSNS（インスタとFB）にて定期的な情報発信を行った。 ・オンライン動画研修を導入することにより、法定研修だけでなく職種や階層別の研修を該当職員の全てにおいて、実施することが出来た。次年度以降も継続して実施していくこととする。